



流通BMS®探訪



2010. 5. 25

No.6

目次

丸久の導入事例	1
トピック	5

昨年 11 月に 30 年来の JCA 手順を切り替え ～丸久の流通 BMS 対応事例～

今回の流通 BMS 探訪は、山口県防府市に本社を置く中堅食品スーパー、(株)丸久を取り上げました。同社は 1954 年(昭和 29 年)に 9 社の食品・雑貨問屋が防府市に開設した「防府専門大店」として創業、同年中に現社名に変更しました。当時は社名に「丸」をつけるのが流行しており、9 社の「丸」を「久」に替えて社名としました。今日では山口県を中心に広島県、福岡県に直営 56 店舗、グループ 24 店舗を展開し、売上高 794 億円(2010 年 2 月期連結)です。

昨年 11 月からそれまでの JCA 手順を新しい手順に置き換えることを目的に、富士通グループの ASP を利用した新 EDI システムに切り替え、流通 BMS に対応しています。新 EDI システムの狙いについて、同社システム管理部の舟川真司部長、柳利幸マネージャー、石原匡之シニアスタッフの 3 氏にお話を伺いました。

— 昨年 11 月に新しい EDI システムに切り替えられたということですが、その背景についてお聞かせください。

【舟川】

当社は、1980 年の JCA 手順制定直後に EOS を導入し、その形ですっと来ていたのですが、モデムの問題とか通信速度が遅いといった問題があって、いずれ替えようかなという話は何年か前からしていました。しかし、タイミングの問題や流通 BMS がどうなるのかなというのがあって、昨年までリサーチ活動をしてきました。

流通 BMS もかなり普及はしてきているようですが、私共のお取引先を見回した場合、対応できるかどうかというのがどうしても引っかけましたので、いろいろ対応しやすいかなということで、安易ではありませんが、Web-EDI を基本に考えました。

それも自社運営するか、あるいは ASP を利用するかということで、コストや運用の部分を含めていろいろ検討しました。流通 BMS にも対応しなければいけないだろ



(株)丸久 システム管理部
左から舟川真司部長、柳利幸マネージャー、
石原匡之シニアスタッフの各氏

うと考えていましたので、その切り分けを外部に委託すれば当社も助かる、ということで、(株)富士通中部システムズ (FJCL) さんをお願いすることにしました。

—以前は EOS (発注) だけだったのですか。

【舟川】

JCA 手順の仕組みの中で、1999 年から出荷データの交換を行い、57 社のお取引先に対応していただいております。また、希望するお取引先に対しては、受領データ、支払データの送信も行っています。ただし、特に支払データについては紙を希望されるお取引先も多く、そのようなお取引先には、支払明細などを当方で作成して郵送しています。

—従来は自社のサーバで運用されており、今回の新 EDI で初めて外部の ASP サービスを利用されたということですが、どのような検討をされたのでしょうか。

【柳】

1 年半くらいかけて 10 社くらいの ASP サービス会社を比較検討しました。JCA 手順ではない他の手順ということで幅広く検討したために、10 社という数になりました。最終的に選定するに当たっては、流通 BMS に対応できるという条件で選びました。

流通 BMS 対応が可能なところは複数ありましたが、最後はコストの比較で決めました。FJCL の Chain Flow は標準の機能として流通 BMS に対応されていますが、他は別途ソフトが要するという形でしたので、お取引先が対応しやすいと考えました。

「お取引先は業界標準に高い関心をお持ちだと感じます」

—昨年 11 月以降の導入状況を教えてください。

【舟川】

11 月に 19 社、12 月に 10 社というように少しずつ稼働していて、この 4 月で 87 社になりました。6 月時点では 114 社になる予定です。当面はグロサリーのお取引先を対象に考えています。この分野のお取引先は三百数十社あります。レギュラーだけでなく、スポットも含めて。この分野をできるだけカバーしたいと考えています。

—社数ベースでは予定を含めて対象取引先数の半分弱ということですが、データ量からいったらどうなるのですか。

【柳】

元々、出荷データ以降の EDI 対応お取引先 57 社は大手さん中心ですので、データ量の 90% 弱は今回の新 EDI システムの稼働前から達成していました。それが今回、Web-EDI という中小でも取組みやすい手段が増えましたので、さらにパーセントは上がっています。6 月までいけば、手入力している伝票が今までの半分くらいになる見込みです。

—114 社の中で流通 BMS 対応は何社ですか。

【柳】

6 月時点で 30 社になります。比率でいえば 26% が流通 BMS ですが、私達が思っていたよりは多いかなという印象です。やはりお取引先は業界標準に高い関心をお持ちだということ

感じています。

【石原】

丸久の新 EDI 対応を契機に、流通 BMS を始められたグロサリーのお取引先が 10 社ほどありました。そこはやはり標準化に対する期待ですね。今後当社だけではなく、他の小売さんもやられるであろうということを見込まれていると思います。

—取引先説明会後の質問への対応で苦慮されたようなことはありますか。「JCA 手順のモデムはまだ使えるのに」とか（笑）。

【柳】

そういう古いものに拘るような声はありませんでした（笑）。それよりも、元々システム化されていないところが多いので、まずそこがご理解いただけない。「メリットは何ですか」と単刀直入に聞かれたりしました。

私共は規模の小さなお取引先が多く、地場の例えばお豆腐屋さん、うどん屋さんとか、数店舗にしか納めていないお取引先は「これやったら取引が増えるんか」とか。それとこれとは別の話なんですけど（笑）。

—そういうところは Web-EDI だったら対応できるという話になるのですか。

【柳】

114 社の中で Web の画面に向かって入力される方法を選択されたところが 56% を占めます。今まで導入コストの問題などでご協力いただけなかったところにもご協力いただいているのは確かですが、それですべてがカバーできているかということ、これから残り半数のお取引先にどうやって広めるかが大きな課題です。

—生鮮の話は今まで出てきていませんが、生鮮はどういう予定ですか。

【柳】

生鮮にカテゴリズしている商品でも商品特性としてグロサリーに近いものがありますので、そういう可能なところからお声がけして、なるべく協力してもらおうにはしています。

ただ、それで本格的な生鮮の EDI という形にはなりませんので、どこかのタイミングで検討したいとは思っています。

【舟川】

どこか成功事例があれば参考にしたいとは思っています。いろんな IT ベンダーさんから提案をもらいますが、スーパーによっていろいろ取引形態があり、また、生鮮でも品目によっていろいろな発注形態がありますので、なかなか手をつけられないでいます。

【石原】

商品マスタは公設市場のマスタとうまく連携してとか、いろいろ研究中です。

—今回の EDI 化の狙いをまとめるとどういうことになるのでしょうか。

【柳】

当社から見ればまずは伝票入力の負荷軽減であり、お取引先側から見れば、売掛の管理だったり、あとは伝票代の削減が双方にメリットあるのではないのでしょうか。あとはインフラの問題として、今後ずっと JCA 手順を使い続けるのも当社、お取引先双方で不安が残る。そこはきちんと Web であったり流通 BMS であったり、そういう新しい技術に対応したインフラを構築したかった。

同時に、お取引先にとっては通信時間の短縮とか通信費の削減とか、特に大手のお取引先には大きなメリットになっているのではないのでしょうか。以前の通信の実績などを見ていますと、大手さんはかなり時間をかけておられました。トラブルがあって再送信する時などは出荷に間に合わないとか、当然出ていました。そのへんが主な狙いとしてあります。

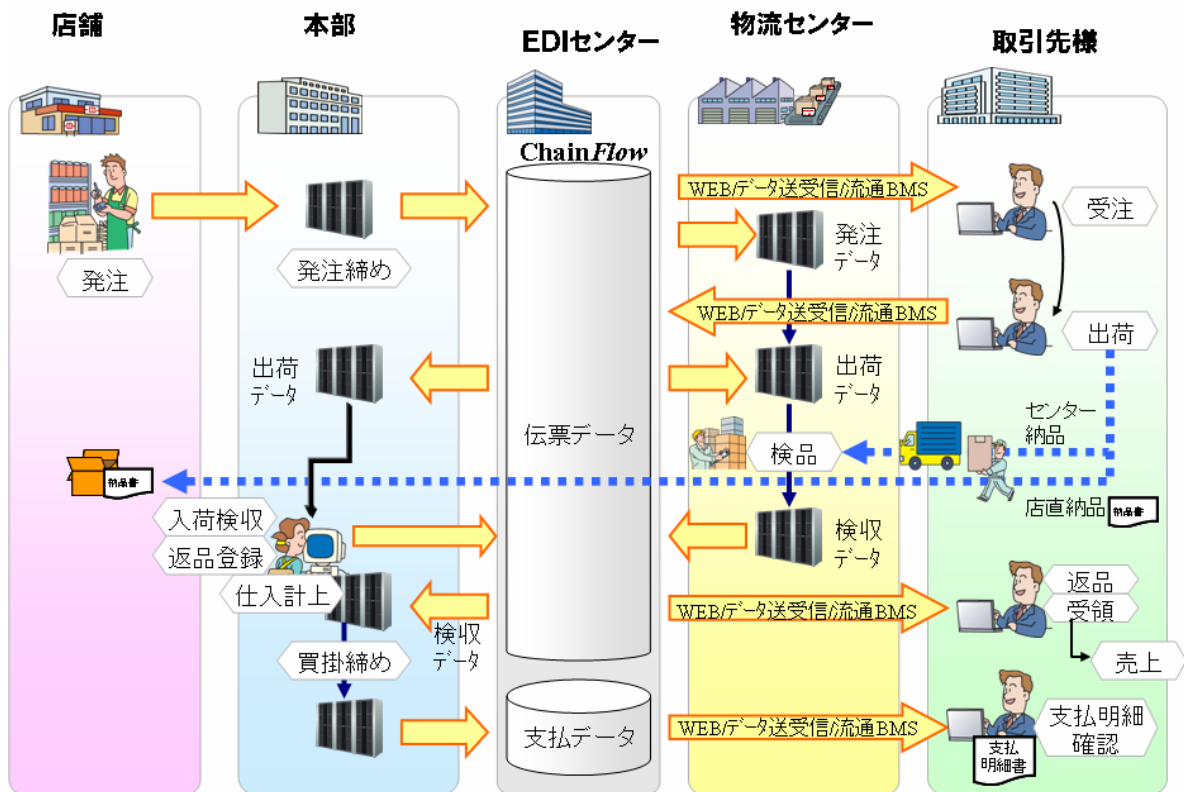
あとは今回、ASP という形を選択しましたので、システム管理業務の作業負荷の軽減が実現できました。当社でデータセンター並みの設備を持っているわけでもないし、技術もそこまではないので、そこが補えて、より安全な状態でシステムが管理できるところは大きなメリットだったと思います。

コスト面では、システムを買い取って自社に置く形態と比べると、そう大きな差はありませんでした。そうであれば、外に出してしまった方が良かったらということになりました。あと、電子帳簿保存の機能もありましたので、伝票保管の必要がなくなるというメリットもあります。

—本日はどうもありがとうございました。

(聞き手：流通システム標準普及推進協議会 部長 坂本 尚登)

（株）丸久の新 EDI システムの全体概要



トピック

流通 EDI 入門講座、流通 BMS 講座 開催のご案内

1. 流通 EDI 入門講座（無料）

開催日程 : 2010年6月10日(木) 13:30~16:30 受付開始: 13:00~

2010年7月8日(木) 13:30~16:30 受付開始: 13:00~

開催場所 : (財)流通システム開発センター(定員約60名)(無料)

講座概要 : 流通業界の特徴と流通システム標準の歴史と現状を説明
統一伝票、データ交換(EOS/EDI)、流通VAN、標準コード、J手順から流
通BMS策定までの背景などについて、初心者の方々に分かり易く説明。

受講対象者 : これから流通業のシステムを担当される皆様、
小売業、卸売業、商品メーカー、システムベンダーなど

申し込み制 : <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/edi.html>

2. 流通 BMS 講座（導入編）（無料）

開催日程 : 2010年7月16日(木) 13:30~17:00/受付開始: 13:00~

開催場所 : AP大阪(定員約60名)(無料)

講座内容 : 流通BMS導入時の検討項目、自社業務運用と流通BMSの項目との関連
について説明。

受講対象者 : 流通BMSの導入を検討しているユーザー企業の現場部門、システム部門の
方々、及びユーザー企業をサポートするSI企業やコンサルタントなど。

申し込み制 : <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>

3. 流通 BMS 講座（システム設計編）（無料）

開催日程 : 2010年6月17日(木)

開催場所 : (財)流通システム開発センター(定員約60名)(無料)

講座内容 : 流通BMSの導入、環境設定を自ら行う方に演習・理解度確認を通して実践的
に説明します。マッピングシートと通信パラメータ協定シートを使用した演
習があります。

受講対象者 : 流通BMSを導入されるユーザー企業のシステム部門のご担当者、流通BMS
対応のシステム構築を請け負うSI企業の方々など。

申し込み制 : <http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/event/event01.html>



流通 BMS 探訪 No.6

発行 : 2010年5月25日

発行人 : 流通システム標準普及推進協議会(流通BMS協議会)

住所 : 〒107-0052 東京都港区赤坂7-3-37 プラズ・カガ
財団法人 流通システム開発センター内

電話 03-5414-8505

FAX 03-5414-8513

流通BMSのロゴマークは(財)流通シ
ステム開発センターの登録商標です。
(登録第5270226号)

お問い合わせは協議会のホームページ(下記)からお願いします。

<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>